

令和3年度 第5回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 令和3年6月10日（木曜日） 午後1時30分から午後3時00分まで

開催場所 大手公民館 2階大会議室

出席者（敬称略）

委員 降旗都子（委員長）、丸山宗志（副委員長）、内山博行、倉田美智子、臼井和夫、山下京子、鳥羽弘幸、倉澤 聡、窪田隆彦、相原功子、小林 修、松山紘子
（欠席：濱由佳子、赤羽 勝、久保 愛、大門千恵美）

事務局 地域づくり課 課長 廣田圭男

市民活動・ユースサポート担当係長 胡桃澤伸一

地域づくり担当係長 床尾拓哉、主査 内田裕美

1 開会

（降旗委員長）

2 あいさつ

（降旗委員長）

- ・ コロナ禍で人と会う機会が減り、子育てに悩んでいるお母さんが福祉ひろばに来て泣いてしまうこともあった。地域としてできることがまだまだたくさんあると感じる。
- ・ 第3次地域づくり実行計画に向けて、本年12月に提言書を出す予定で進めている。
- ・ 提言書が松本市の地域づくりにとって意味あるものにするため、活発な議論をお願いしたい。

3 第4回会議録の確認について

（降旗委員長）

- ・ 第5回議事録と合わせて次回確認する。

4 会議事項

(1) 課題・テーマの設定について

（降旗委員長）

- ・ これまで、第5期市民委員会の検討テーマをどうするか話し合ってきた。
- ・ 前回の終わりには、「地域のつながり」について検討していく方向性を共有することができた。今期のテーマは「地域のつながり」としてよいか。

<意見等>

- ・ なし。第5期市民委員会の検討テーマは「地域のつながり」に決定

(2) 意見交換（グループワーク）

（降旗委員長）

- ・ 「つながり」という言葉からイメージしているものは委員それぞれ異なっている。

- ・ 今回は、グループワークを通じて具体的な事例やイメージの共有を図り、今後地域づくりを進めていく上で、どんな「つながり」が必要かを話し合いたい。

<グループワーク>

※ ファシリテーター：丸山副委員長

※ 3グループに分かれて、次の3つの「つながり」について意見交換を行う。

ア 「負」のつながり …あまり好ましくないマイナスのつながり

イ 「理想」のつながり …地域にとってこれ以上ない理想的なつながり

ウ 「最低限」のつながり …せめてこれぐらいは欲しいという最低限のつながり

※ その後、グループワークの結果について各グループから発表

<意見等>

- ・ 別紙「グループワークのまとめ」のとおり

(丸山副委員長)

- ・ 「負のつながり」はいずれも一方向。双方向で求めあうことの大切さが見えた。
- ・ 「理想」と「最低限」は切り分けが難しいこともあるのではないかと。
- ・ 「あいさつ」「顔が見える」など各グループ共通のキーワードもあった。

(降旗委員長)

- ・ グループ発表を踏まえ、意見等はあるか。

<意見等>

- ・ なし

(3) 今後の進め方について

(降旗委員長)

- ・ 次回、今日話しあった「地域のつながり」をどうすれば地域に作るができるか、その方策について話し合いたい。
- ・ 皆さんには具体的なアイデアを持ち寄ってほしい。

6 今後のスケジュールについて

(事務局)

※ 資料に基づき説明

<質疑等>

- ・ なし

(以上)

第5期地域づくり市民委員会（第5回）グループワークのまとめ

1 「負」のつながり

一方的な	<ul style="list-style-type: none"> おせっかい、押しつけ、他人の気持ちが理解できない、共感できないなど、一方的な関係 隣人が勝手に家に上がってくるなど、好ましくない関係
地域の閉鎖性	<ul style="list-style-type: none"> しがらみなど地域の仕組みや文化に由来するもの 旧住民の結束が強すぎるあまり、新しい住民が入りにくい。 古くからの慣習が根強い地域。新しい人が入ってきたときに疎外してしまう。 他地域から来た嫁を受け入れない。
世代間	<ul style="list-style-type: none"> 異なる世代とのつながり（煩わしいと感じる人もいる）
負担感	<ul style="list-style-type: none"> 町会に加入すること自体が「負」と捉えられている。 町会に協力しようという気持ちよりも、負担感が大きい。 高齢者クラブがなくなってきたのは、皆役員が大変でやめてしまうから。
組織間	<ul style="list-style-type: none"> 組織としてイベントを中止したが、他の関係組織から苦情を受けた。つながりを実感する反面、身動きの取りにくさも感じた。

2 「理想」のつながり

あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> お互いに自然なあいさつができる。 隣組であいさつができる地域。隣組が機能していれば災害時にも助け合える。
出会い	<ul style="list-style-type: none"> 今まで知らなかった人と出会うことができる。
楽しい	<ul style="list-style-type: none"> 「楽しさ」によるつながり。世代間交流 祭りのある地域は強い。祭りのつながりは「楽しい」という思いがあるから
隣近所	<ul style="list-style-type: none"> 向こう三軒両隣の関係がしっかりしている。 回覧板を回すときに声を掛け合える。
共感	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことを互いに言い合える関係 喜びを話せるつながり
地域と子ども	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと地域のつながりがある。 子どもが地域を知ること、大きくなった時に地域に関わる人になる。

3 「最低限」のつながり

あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 行き会ったときに、あいさつを交わせる。
顔の見える関係	<ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係。「あの子、この家の子だね」と分かる。

地域と子ども	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから広がるつながり。親が子どもから地域を教わる。 学校を介した子どもと地域とのつながり
頼み事ができる	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを「少しの間見ておいて」と近所の人をお願いができる。(理想であり最低限でもある)
地域の役	<ul style="list-style-type: none"> 役員としてのつながり。「仕方なしに」でもやっていると、地域を知ることができる。災害時にも生きてくる。
つながりたい人がつながれる	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの高齢者など「場」に出てこられない人もいる。つながりたい人が社会とつながる機会自体が良いつながり

4 その他の意見等

- ・ 子育ては、すぐ近くに同年代の子どもがいないと誰も頼れない。
- ・ 地域で子供の姿を見なくなったが、児童センターにはいる。児童センターと地域とがもっとつながるとよい。
- ・ 困っている人が求めるつながりと、困っていない人が求めるつながりは違うのではないか。
- ・ つながりを求める人にとっては、人とふれ合う機会があることが大事